

令和5年度 あやの台保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 少子化の影響もあり市内は待機児童もなく、保護者の希望される園にスムーズに入園できました。小学校区内の園を選ばれる傾向が強くなってきている中、幅広く選ばれる園となるよう市内全域に向けての発信や子育て支援の活動の工夫も行いながら取り組みました。
- 奈良市における学校法人の民間移管に伴い、あやの台幼稚園園長が変わりました。これを機会に管理職等の育成を始め、職員とのコミュニケーションを大切に、心も体も元気に輝ける職場づくりを目指しました。
- 年度末の退職者は4名（保育士2名、保育補助2名）でした。保育士は新卒1名、スカウト会社より1名採用し、3月より研修を実施、現在就業中の若手保育者のリーダー起用などで意識の向上を図りました。子育て中の職員やパート職員が研修等に参加しやすいような時間帯や日にちを分けるなどの工夫を行い、研修充実によるスキルアップなどにも取り組みました。
- 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に分類されたことによって、少しずつ以前の生活・保育に戻すように取り組みました。その中で年間行事は、コロナ禍で改善された良い部分は残しつつ次年度にも生かしていきます。
- 腰立の見学会を行いました。その中で、再度全職員で立腰の取り組みの見直しや今後のクラスの課題を見つける事が出来るという良い機会となった。見学者より職員の子ども達に向き合う姿や、立腰の取り組みが皆で統一されている等の良い意見も頂き、職員のモチベーションにも繋がりました。
- 年度末には処遇改善臨時特例を支給し、職員のモチベーションアップにつなげました。
- 経年劣化の見られる園内外（床、壁、屋根、設備機器）等の補修、入れ替えについては令和7年度事業として実施する予定で、行政とも話し合いながら準備を進めてまいります。

②定員 110名 合計122名（定数外12名）

③事業日数 294日（日・祝日及び12月29日～1月3日は休園とします）

④開園時間 平日 7:00～19:00
土曜日 7:00～18:00

⑤保育時間

平日	早朝保育	7:00～8:30	土曜日	早朝保育	7:00～8:30
	保育短時間	8:30～16:30		保育短時間	8:30～16:30
	保育標準時間	7:00～18:00		保育標準時間	7:00～18:00

延長保育 18:00～19:00

⑥職員数

園長 1名、主任保育士 1名、看護師 2名、保育士 19名（うちパート保育士 8名）
保育補助 2名、栄養士 1名、調理員 4名、その他 6名

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私達は、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 子ども達がいきいきと生活、活動できる環境を整える
- 自分らしく生き抜いていく土台を培う
- 立腰保育・教育で心と体を整える

③保育目標

- 友だちと助けあえる子
- 心身ともに健康な子
- 失敗を恐れず、色んなことにチャレンジできる子
- 優しさや思いやりのある子
- 腰骨を立てる 躰の三原則（挨拶は自分から先にします、返事はハイとはっきりします、履物を揃え椅子は入れます）

④クラス体制

0歳児	9名	保育士	3名
1歳児	16名	保育士	4名（1歳児加配2名）
2歳児	22名	保育士	4名
3歳児	24名	保育士	2名（加配1名）
4歳児	24名	保育士	2名（加配1名）
5歳児	24名	保育士	1名
合計園児数	119名	保育士・看護師	16名

園長	1名
主任保育士	1名
延長保育担当保育士	2名（パート保育士2名）
一時預かり事業（一般型）	1名

地域子育て支援拠点事業	3名（うちパート保育士等2名）
病後児保育事業	1名（看護師）
発達支援事業	2名
アレルギー等対応	1名
保育補助、その他	4名

⑤保育内容

保育理念・方針・目標に沿った全体の計画を基に、よりよい環境を整え、心身ともにたくましく健康で、人間性豊かな子どもを育てるために下記のことを行いました。

- 教育哲学者 森信三先生提唱の「腰骨を立てる」（立腰教育）を基に、「挨拶は自分から先にしよう」「返事はハイとはっきりしよう」「履物を揃え、イスをいれよう」の躰の三原則は習慣化するように保育者が見本となり継続して実践しました。
- 乳児クラスはゆるやかな担当制で保育を行い、良好な環境の中で保育士の愛着関係のもと安心して過ごせるよう、子ども一人一人の発達、状況に合わせた関りを大切にしました。又、愛着関係を大切にする「わらべうた・ふれあい遊び・運動遊び」を毎日多く取り入れました。
- 石井方式幼年国語教育（漢字かなまじり絵本等）を実践し、漢字地と平仮名を生活や遊びの中に意識して取り入れ、文字をイメージでとらえ、興味を示すことにより、想像力豊かな本好きの子どもに育てます。朗唱することでしっかりと声を出し、心と身体の活性化を図りました。
- 定着した朝の運動遊びでは更なる体力づくりや、「感覚統合」の考え方を意識し活動しました。近隣の環境（遊歩道やあやの台中央公園など）を活用して子ども達がしっかりと体を動かせるように工夫しました。夕方は園庭やホールで遊ぶなどの時間が少なかったように思うので、次年度はたくさん体を使った遊びができるように努めます。
- 造形（絵画）活動は喜んで参加し、園内に作品を掲示することで子ども同士の表現を話したり、共感したりする姿も多くみられました。保護者の方にも共有していただく機会となりました。
- 給食室との連携を積極的に深め、年間食育計画に基づき食育活動に取り組みました。あやの台テラスにてさつまいもをはじめ野菜栽培や収穫、クッキング活動、家庭への情報発信（おたより、掲示）など啓蒙活動を継続して行いました。また芋ほりでは法人姉妹園との交流にもつながりました。
- 絵本や全国人権擁護委員連合会のリーフレット「種をまこう」を使って人権年間計画を作成し年間を通じて人権保育に取り組みました。
- あやの台テラスや近隣の公園等で自然あそびを実施しました。今後も五感を働かせ想像力を育んだり、地域の人と触れ合ったり自然を大切に思う気持ちが育つように続けていきます。以前利用していた橋本市郷土の森学習体験棟「ひだまりの郷」や「矢倉脇」での森あそび、竹切り体験などは予定が合わず実施できませんでした。次年度は、早目に計画を立て実施していきます。

⑥家庭との連携

- 年度初めのクラス懇談会において、保育理念、目標、保育内容（育みたい資質・能力）、立腰教育、基本的な生活習慣の重要性についてレジュメやおたよりを作成して内容を保護者に伝えました。年2回の個人懇談、保育参加を通してクラス運営や職員の関わりなどを知っていただく機会としました。また保育参加後のアンケートも実施し、日々の保育や園運営に反映させました。
- 日々の送迎時には、一日の子どもの様子を伝えたり、保護者の思いを聞き入れたり丁寧に対応するよう心掛けました。
- ホームページのブログは毎日更新し、その他おたより、掲示物やメール配信などリアルタイムの情報発信を行いました。現在利用しているメール配信システムが次年度で終了となるため、よりよい情報発信が行えるシステムの検討を行っています。
- 保護者に向けた催しや親子で一緒に遊び体験できるイベントや講座の開催は、今年度もまだ感染を懸念して見送りました。

⑦人材育成

- 「不適切保育について」や「安全管理について」など職員間での意見交換の場や業務内容の見直しを行うなどし、重大な事故や事件につながる事のないよう保育や職場環境を見直しました。
- 個別の研修計画を基に法人内研修や外部の研修会にも積極的に参加しました。
特にキャリアアップ研修については、今年度はオンライン研修が中心で受講人数大幅に広がるため、対象職員の受講を優先的に進めました。
また非常勤職員は勤務時間等が異なるため、園内研修では日にちや時間を分ける等を工夫し参加できるようにしました。
- 立腰教育については園内研修をグループに分け実践形式により実施しました。
- 研修計画に基づき、看護師による保健研修を月1回行いました。実技研修（救命救急・S I D S・防犯・アレルギー対応・災害時の対応・運動・リトミック・音楽・歌唱・絵画など）も積極的に行いました。
- 「橋本市私立園会」などでの職員研修会の実施（年2回）、5歳児の交流運動会を橋本県立体育館にて行いました。
- 園内の知りえた情報は速やかに園長、主任保育士に報告・連絡・相談を徹底し、その都度や昼礼、職員会議棟で全職員が共有できる体制づくりに努めました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援拠点事業「ポトフのおなべ」

- 市の広報誌の地域子育て支援センター欄や当園のホームページやメールにて、子育て支援センターの日程や子育て情報なども配信し、多くの地域の方が利用できるよう積極的な広報を行い

ました。来園親子数は 1,297 組の 2,732 名でした。

- ルーム開放（731 名）や親子登園（327 名）、園庭開放（329 名）、地域への出張保育（748 名）、月毎の子育ての集い（483 名）、おはなし広場（34 名）などをさらに多くの地域の方に利用して頂けるように内容の充実を図りました。また、地域のサークルの支援（80 名）にも積極的に関わるようにしました。
- 市の保健師や家庭児童相談員、地域の自治会、民生委員、人権擁護委員と連携を図り、保護者や子どもの支援や交流を行いました。特に要対協の家庭の支援や情報共有は市内外の関係機関と密に行いました。その他、発達相談や就学相談など保護者の思いも聞き、一緒に考える姿勢で対応しました。
- 地域にある「あやの台ハウス」や「集会所」を有効活用し、ほっとできる環境の提供やさらに良い親子の交流、相談ができるようにしました。（妊婦、0、1 歳の親子など）
- 橋本市の子育て支援関係者交流会や研修会に担当者が参加し情報交換や専門性の向上に努めました。

その他の事業

- 病後児保育室については、今年度は最多の年間 26 名の利用でした。年度初めには市内の園長会にて資料を配布し説明するなど広報にも努めました。
- 中学生 30 名の家庭科授業の体験学習の受け入れを行いました。また保育実習は短期大学の学生 6 名を受け入れました。
- 地域の幼保小中高校との交流や職員の情報交換を行いました。また中学校区の教育関係者や地域の方と毎月のミーティングを行いました。
- 共育コミュニティ活動（リサイクル活動として古着を難民キャンプに届ける“服のカプロジェクト”、ワクチン提供につながる“エコキャップ集め”）を継続して行いました。
- 毎月の市の移動図書館（ブッキー号）の来園時に、園児や地域の方にも貸し出し図書の利用ができるようにするとともに、子育て支援担当者と連携を図り、「おはなし広場」で絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、在園児や地域の子育て親子の絵本に触れる機会を多く持ってもらうようにしました。

⑨苦情処理

- 苦情解決窓口（苦情受付担当者を大谷紀久子、解決責任者を武藤廣茂とします）、第三者委員（2 名）の設置を入園準備説明会時に重要事項説明書内での説明や、掲示等で保護者に知らせました。
- ご意見 BOX への投かんはありませんでしたが、口頭での意見、要望等を伺ったものについては検討し、おおむね 24 時間以内に回答することを心掛けました。対応に時間を要する内容については、途中経過を掲示板等で知らせるようにしました。

⑩リスクマネジメント

- 危機管理マニュアル内のバスの安全管理について職員に訓練、研修を実施しました。

又、置き去り防止の為バス車内には点検ブザーを設置し、運転手と共に運行にあたっての重要性を再確認しました。

- 事故防止のために園内にビデオを設置（4 か所）し、マニュアルを整備し、園内研修（SIDS、救急救命等）を行い、職員の安全に対する意識向上の機会にしました。園内・園外の危険マップについての見直しと合わせてヒヤリハットを活用し、同じ事故や怪我などが続かないように職員の立ち位置や環境構成を見直しました。
- 業者による大型遊具の点検、職員は毎日施設内外の設備、用具等の清掃、消毒・点検を行いました。また、看護師が担当者として衛生管理に努めました。引き続き、玩具や絵本などは除菌ボックスを使用して毎日消毒しました。
- 消防と連携して年2回の総合訓練や消防点検を実施しました。不審者対応は今年度2回実施し、警察の方にお越し頂き職員研修や子ども達に話をして頂く機会を設けました。交通安全についての話、講習もして頂きました。
非常用の備蓄品は3日分（アレルギー用も備蓄）、厨房が使用できない場合等は、委託業者の連携先のUサービスで対応できるように確認しました。
- 感染症発症や不審者などの情報については、リアルタイムなメール配信と掲示により保護者に伝え、市、関係機関とも連携し対応しました。
- 栄養士、給食担当者と月1回の話し合いを行い、安全な給食提供を行いました。又、アレルギーについての研修を行い、職員のスキルを高めました。

⑪設備の改善及び物品購入について

- ・床、壁（クロス）、外壁、屋根等の塗り替えや補修は大規模修繕にて対応予定です。